

2023年度 新入生ガイダンス

福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科

4月3日（月）11:30-13:00 @20507教室

1. 学科長挨拶（菅原） 5分
2. 教員／助手／技術員 紹介 15分
 - [空間デザインコース]
内田祥士、齋藤博、富安亮輔、仲綾子、名取発

 - [生活環境デザインコース]
勝平純司、近藤存志、菅原麻衣子、水村容子、嶺也守寛

 - [プロダクトデザインコース]
池田千登勢、大沼敦、柏樹良、高橋良至、松本和也

 - ・助教：矢野拓洋
 - ・実習指導助手：木村才人、生田尚志、横山 翔一
 - ・技術員：西條祐馬、作田 隆彦
3. 学科の教育内容について 25分
 - ・履修要項の重要力所の説明（教育課程委員：勝平）
 - ・建築士の受験要件および関連科目の履修について（内田）
 - ・3年次のコース分けについて（松本）
 - ・ToyoNet-ACE 1年生掲示板への掲載について（松本）
 - ・大学院について（専攻長：池田）
4. 人間環境デザイン基礎演習Ⅰ（齋藤） 5分
5. 学生生活について（学生生活委員：大沼） 5分
6. 実験工房・制作工房について（工房長：柏樹） 5分
7. 作業服（つなぎ）の購入について（嶺） 5分
8. 肖像権・著作権の許諾書（広報委員：松本） 5分 >>>QRコードにアクセスし回答
9. 新入生歓迎行事の案内（名取） 5分
10. 記念撮影 @実験工房（松本） 15分

◆◆単位のしくみ◆◆

授業科目には学修時間に応じた単位数が定められており、卒業要件等の履修基準は修得すべき単位数によって規定されています（P.39～「カリキュラムについて」を参照）。

1単位は、授業や自習をすべて含めた30～45時間の学修に対応しており、授業の占める時間は、講義・演習科目は15時間、外国語科目は30時間、実験・実技・実習科目は30～45時間と設定されています。

標準的な授業実施形態は、週1回1学期15回授業が実施されます。授業の講義時間はどの科目も、90分です。

授業科目等	単位数	授業回数 (1学期)	学修時間	
			授業時間	予習復習時間
講義・演習科目	1単位	15回	15時間	30時間
外国語科目	1単位	15回	30時間	15時間
実験・実技・実習科目	1単位	15回	30～45時間	0～15時間

◆◆履修計画・履修登録◆◆

授業を受け、単位を修得するためには事前に授業科目の登録が必要になります。これを「履修登録」といい、各学科の教育課程表に沿って履修計画を立て、授業科目の登録を学期毎に行います。

定められた期間に「履修登録」を完了しないと、履修希望する科目の受講および試験の受験ができず、単位も修得できなくなりますので注意してください。

- (1) 履修登録にあたっては、履修要覧、シラバス（ToyoNet-Gを参照）、『履修登録のしおり』等を熟読のうえ、時間割を作成してください。「履修登録」はToyoNet-Gから行ってください。
- (2) 教育課程表に示された配当学年に従って履修登録してください。配当学年が自分の学年よりも下の科目は履修することができます。
- (3) **履修登録期間以降の訂正・削除は一切認めません。**
- (4) 授業時間割及び講義内容等に変更があった場合は、電光掲示板およびToyoNet-ACEに掲示します。
- (5) 履修登録後、「履修登録確認表」を必ず出力し、成績発表時まで手元に保管してください。
- (6) 資格取得を希望する学生は、「諸資格について（P.105～）」および「教職課程（P.147～）」で資格取得のための条件を確認してください。
- (7) 1セメスタで履修登録できるのは**原則24単位まで**で（P.19「履修上限単位数（CAP制）と履修科目の制限」を参照）。
- (8) 同一科目を2つ以上履修することはできません。
- (9) 一度単位を修得した科目を再度、履修登録することは**できません**（ただし、修得できなかった科目については、再度履修することが可能です）。

各学科の教育課程表に沿って、計画的な履修をするようにしてください。また履修計画を立てるにあたっては、教職員の履修指導を受けるほか、カリキュラムマップを参考にしながら、段階的な学修に取り組むようにしましょう。

◆履修登録の流れ◆

履修登録は、春学期の開始時と秋学期の開始時の年2回、ToyoNet-Gを利用して行います。詳細については『ToyoNet-G利用ガイドブック』を参照してください。

時間割の作成

『履修要覧』『シラバス』『履修登録のしおり』や前学期『成績表』等をもとに該当学期に履修する授業を決めておくと履修登録がスムーズに行えます。

(※『履修要覧』は福祉社会デザイン学部・健康スポーツ科学部WebサイトからPDFデータをダウンロード可能です。)



履修登録（正規登録期間）

- ・インターネット環境を通して登録。
- ・期間内なら何回でも追加や削除が可能（事前登録されている科目・抽選に通った科目等を除く）です。**登録期間終了後は履修登録科目の追加・削除はできません。履修登録を行う度に必ず『履修登録確認表』を出力して確認をしてください。**

※履修登録確認表は、履修登録期間中も出力することができます。

※履修登録期間の最終日はアクセスが集中する場合がありますので、時間に余裕を持って登録してください。



抽選科目の抽選結果確認

- ・抽選実施科目・抽選結果についてはToyoNet-Gで確認することができます。
- ・**抽選に通った科目の履修登録期間内の変更は一切できません。**
- ・抽選で外れた科目の履修は自動的に削除されます。



履修登録（追加登録期間）

- ・この期間内であれば、履修科目の追加・削除が可能です。
- ・抽選科目は、定員に達していない場合、先着順で履修登録することができます。



履修登録完了 履修登録確認表の出力・保管

- ・ToyoNet-Gで必ず『履修登録確認表』を出力して内容を確認してください。出力した『履修登録確認表』は成績発表時まで大切に保管してください。成績発表時に履修登録の事実を証明する資料となります。
- ・履修登録を証明する『履修登録確認表』の提示がない場合、履修に関するトラブルは一切受け付けません。
- ・『履修登録確認表』に記載されていない科目の講義に出席し、試験等を受験しても単位は付与されません。



履修取消期間

GPA制度に則り履修科目の取消を希望する場合は、『履修登録のしおり』に記載された期間にToyoNet-Gより手続を行ってください。

なお、この期間中に履修科目の追加・変更はできません。

◆シラバス◆

シラバス（講義要項）には、授業の内容（概要）や到達目標など、科目の履修を通じて身につけることのできる知識、能力、また各回の授業の進め方や内容、成績評価方法・基準、使用テキストや予習・復習の指示などが、学生に示されています。

履修する科目を決めるにあたっては、シラバスを熟読することはもちろん、次回の授業の準備学習や復習の際の振り返りに用いるなど、シラバスを活用することによって学習効果を高めるよう努めてください。

シラバスはToyoNet-Gで公開しています。

シラバスの記載項目

主な記載項目	記載内容
科目名	履修要覧・時間割表に記載されている科目名が示されています。
担当者	担当教員名が示されています。
サブタイトル	科目のサブタイトル、サブテーマが示されています。
講義の目的・内容	科目の目的として、どのような内容を学ぶのが、またどのように教授していくかについて示されています。
学修到達目標	履修を通じて身につけることのできる知識・能力などが具体的に示されています。
講義スケジュール	各回の授業内容・テーマをもとにしたスケジュールが示されています。
指導方法	担当教員がどのように授業内容を進めていくのかについて示されています。
事前・事後学修	授業を受講するにあたって、必要な予習・復習の指示が示されています。
成績評価の方法・基準	どのような評価方法で成績評価をするのか、また評価方法ごとにどれくらいの割合で成績に反映するのかについて示されています。
受講要件	履修にあたって予め必要な条件について示されています。
テキスト	授業で使用する教科書やテキストについて示されています。
参考書	授業に関連する参考書が紹介されています。

シラバスの検索方法

シラバスはToyoNet-Gの「学生メニュー」→「シラバス・教員プロフィール」から検索することができます。

The image shows a sequence of three screenshots from the ToyoNet-G student portal:

- Top Screenshot:** The 'Menu' page with the 'Syllabus Search' link highlighted in the navigation menu.
- Middle Screenshot:** The 'Syllabus Search' page with various filters like 'Academic Year' (2019), 'Course' (Philosophy), and 'Subject/Research Material'.
- Bottom Screenshot:** The search results page for the 'Philosophy' course, showing a table with columns for 'Year', 'Course Code', 'Instructor', 'Subject Ranking', and 'Credits'.

Arrows indicate the flow from the menu to the search page, and then to the search results.

調べたい科目名や教員名を入力

略号	学問分野名
RES	宗教学
ROI	呼吸器内科学
RRC	放射線・化学物質影響科学
RSU	呼吸器外科学
RSW	リハビリテーション科学・福祉工学
SCE	科学教育
SCO	ソフトコンピューティング
SEE	構造工学・地震工学・維持管理工学
SEM	ゼミナール／基礎演習
SEP	固体地球惑星物理学
SFM	構造・機能材料
SGB	遺伝育種科学
SGS	システムゲノム科学
SHS	科学社会学・科学技術史
SNE	特別支援教育
SOC	社会学

略号	学問分野名
SOD	社会系歯学
SOE	教育社会学
SOF	ソフトウェア
SQL	社会法学
SOP	社会心理学
SPA	語学（スペイン語）
SPS	スポーツ科学
SSE	社会システム工学・安全システム
STB	構造生物化学
STP	層位・古生物学
STS	統計科学
SUA	超高層物理学
SUD	外科系歯学
SUS	留学支援
SWS	社会福祉学
SYC	合成化学

略号	学問分野名
TFS	薄膜・表面界面物性
THA	語学（タイ語）
THE	卒業論文／卒業制作
THI	情報学基礎理論
THN	熱工学
TOS	観光学
TPA	都市計画・建築計画
TTH	腫瘍治療学
TUB	腫瘍生物学
TUD	腫瘍診断学
TYS	自校教育科目
URO	泌尿器科学
VIR	ウイルス学
VMS	獣医学
WIS	ウェブ情報学・サービス情報学
WOS	木質科学

科目番号（学修段階＋通し番号）

科目番号	
100番台	主に大学1年生を対象とした授業（1年次レベル）
200番台	主に大学2年生を対象とした授業（2年次レベル）
300番台	主に大学3年生を対象とした授業（3年次レベル）
400番台	主に大学4年生を対象とした授業（4年次レベル）

※上記の科目番号は授業の難易度を示すものとして付されています。教育課程表に記載されている配当学年とは異なる場合があります。

◆ 教員との連絡 ◆

教員と連絡を取りたい場合は、次のような方法があります。

研究室を訪ねる

専任教員（教授、准教授、講師、助教）にはそれぞれ研究室があります。学生からの相談や質問を受けるために「オフィスアワー」が設けられています。

オフィスアワーでは、授業内容に関する質問や、学修の進め方、履修登録のプランなどの相談のほか、レポート指導なども行っています。その他、卒業後の進路や休学、転部・転科、留学、大学院進学などの進路に関する相談、学生生活全般の相談など、幅広い相談に対応しています。

非常勤講師の教員は、研究室を持たないため、オフィスアワーはありません。連絡を取りたい場合は、ToyoNet-Gの「シラバス・教員プロフィール」に記載されている連絡先を参照してください。

オフィスアワーの確認方法

ToyoNet-Gの「シラバス・教員プロフィール」に記載されている「オフィスアワー」の時間帯、研究室を確認し、訪問してください。予約が必要な場合もありますので、事前に確認をしてから訪問してください。

メールを送る

ToyoNet-Gの「シラバス・教員プロフィール」に記載されているメールアドレスを確認し、メールをしてください。



メールで連絡をする際には、必ず学籍番号・氏名を明記し、授業科目名を書くなど、何について質問・相談するか、簡潔にまとめること。

学修にあたって 試験・レポート

◆試験について◆

- (1) 履修登録した科目の単位を修得するためには、**授業回数の3分の2以上出席し、所定の試験に合格しなければなりません。**
- (2) 試験には、授業内試験と学期末試験があります。科目によっては、レポートまたは平常点によって評価する場合があります。

試験には次の種類があります。

授業内試験	平常の授業期間に、科目担当教員によって随時行います。この場合の日程等については授業時やToyoNet-ACE等で確認してください。
学期末試験	春学期試験（7月～8月）および秋学期試験（1月～2月）を、全学的に一定の試験期間を設けて行います。実施期間については、『履修登録のしおり』や本学webサイト「学年暦・キャンパスカレンダー」のページの学年暦を確認してください。
レポート	試験のうち、担当教員の判断により筆記試験に替えて課す課題。
卒業再試験	卒業単位充足者発表後、所定の要件を満たした卒業を希望する4年生を対象として行われる特別試験。

※授業ごとの成績評価方法については、シラバスの「成績評価の方法・基準」を確認してください。また授業中に担当教員から指示される場合があります。

授業内・学期末試験受験上の注意

1. 履修登録確認表に記載されていない科目を受験しても無効です。
2. 学期末試験、授業内試験ともに通常授業実施時間帯で試験が行われます。
3. **試験会場は平常授業時と異なる場合がある**ので、ToyoNet-ACE、公式アプリで確認してください。
4. 1科目で試験会場が2ヶ所以上になる場合、学籍番号で試験会場を指定するので、必ず指定された試験会場を受験してください。
5. 試験に際しては、すべて監督者の指示に従ってください。
6. 学期末試験では、学生証がないと受験できません。必ず学生証を携帯し、試験会場では机上の指示された場所に提示してください。（授業内試験でも求められる場合がありますので、学生は必ず携帯すること。）
7. 試験会場に持ち込みできるものは、筆記用具・時計機能だけの時計・持ち込みが許可されたもののみです。携帯電話、スマートフォン等の通信機能が付いた機器は机上に置けません。試験の妨げにならないよう電源を必ず切って、かばんにしまってください。なお、上記の機器、音楽プレーヤーを時計代わりに使用することはできません。
8. 筆記用具（ボールペン、鉛筆、消しゴム）を必ず持参してください。貸出は一切行いません。
9. 試験中の飲食は禁止します。
10. 答案用紙の、学部・学科・学年・学籍番号・氏名欄には必ず黒のペンまたはボールペンで記入してください（ただし、インクが消しゴム等で消せないものに限る）。
11. 学籍番号欄は学生証に記載されている学籍番号の10ケタすべてを記入してください。学籍番号、氏名のない答案用紙は無効です。
12. 学期末試験は試験開始後20分までに入室しないと受験資格を失います。また退出は開始後30分を経過し、監督者の指示があった後にのみ許可します。途中退室した場合、再入場は認めません。
13. 天災、病気、その他やむを得ない理由によって、試験を受験できなかった場合は速やかに証明書または診断書（コピー可）等を添えて担当教員に届け出て、具体的な指示を受けてください。
14. 不正行為を行った場合は、学則（第57条）に基づき処分されます。不正行為についての規程と処分内容はP.24を参照してください。授業内試験でも不正行為があった場合には、処分されます。担当教員の指示・説明をよく確認してください。
15. 交通機関の運行や天候の乱れ等に留意し、試験会場へは時間に余裕をもって入場してください。

受験中の不正行為

対象試験

- (1) 学年暦に定める試験期間に行われる試験
- (2) 学年暦に定める授業期間内で、試験として実施する旨を学生に開示した、学年暦に定める試験に準ずる試験

不正行為（本学の規則に反する行為、または学生の本分に反する行為）を試験（学期末試験期間・授業期間）において行った場合は、学則第57条に則り処分されます。

1. 処分の種類

処分は譴責、停学、無期停学とする。

2. 処分とその対象となる不正行為

(1) 譴責の対象となる行為

- ① 持ち込みが認められているものの貸借。
- ② 他人の答案の覗き見、答案を故意に他人に見せまたはそれを見る行為。
- ③ 試験監督者もしくは監督補助者からの注意を無視した行為。
- ④ その他、前各号の一つに準ずる行為。

(2) 停学1ヶ月の対象となる行為

- ① 解答用紙を交換する行為。
- ② 許可されていないものの持ち込み。
- ③ 書き込みを許可されていない持ち込み許可教材、机上、手掌等へ書き込みをしての受験、または、これに類似する行為。
- ④ 試験監督者または監督補助者からの注意に対する暴言。
- ⑤ その他、前各号の一つに準ずる行為。

(3) 無期停学の対象となる行為

- ① 替玉受験。
- ② 在学中における再度の不正行為。
- ③ 試験監督者または監督補助者からの注意に対する暴力行為。
- ④ その他、極めて悪質な行為。

3. 処分に伴う措置

(1) 処分の種別にかかわらず、不正行為のあった試験科目の単位は、当該年度（学期ごとに15週にわたる期間並びに15週に1週を加えた16週の前半及び8週にわたる期間）において認定しない。また、上記「2. (2)」および「2. (3)」の停学の対象となる行為については、学年暦に定める当該年度（学期ごとに15週にわたる期間並びに15週に1週を加えた16週の前半及び8週にわたる期間）の試験期間において実施される全ての試験科目の単位を認定しない。

(2) 停学期間は当該学部で処分を決定した日（教授会開催日）の翌日から算定する。

(3) 決定した処分内容については、不正行為者が所属する学部の学部長が、本人および保証人と面接の上、通達する。

(4) 停学期間中は、不正行為者に対してその所属学部が教育的指導を行う。

(5) 「譴責の対象となる行為①および②」、「停学1ヶ月の対象となる行為①」、「無期停学の対象となる行為①」の不正行為は、その当事者すべてが上記(1)～(4)の措置の対象となる。

4. 不服申立て

不正行為の指摘を受けた学生は、不服申立てをすることができる。

※授業内試験でも不正行為があった場合には、処分されます。担当教員の指示・説明を必ず確認してください。

◆ GPA制度 ◆

単位や成績評価、単位の質自体を保証していくことを目的としてGPA（Grade Point Average）制度を導入しています。

GPAとは、授業科目ごとの成績に対して、4.3～0.0のグレード・ポイントを付与し、この1単位あたりの平均を算出したもので、学生の学習到達度をはかる指標として、国内外の大学で広く使われています。

GPAの算出方法

$$\text{GPA} = \frac{(S\text{の修得単位数} \times 4.3) + (A\text{の修得単位数} \times 4.0) + (B\text{の修得単位数} \times 3.0) + (C\text{の修得単位数} \times 2.0) + (D\text{の修得単位数} \times 1.0) + (E\text{の修得単位数} \times 0.0) + (*\text{の修得単位数} \times 0.0)}{\text{総履修登録単位数}}$$

※対象とする科目は、卒業要件の科目とし、卒業要件以外の資格科目・自由科目は対象となりません。

※対象とする評価は、「S, A, B, C, D, E, *」とし、認定の評価「T」は対象となりません。

※再履修で評価を受けた成績については、最新の成績が反映されます（GPA算出の分母にあたる「総履修登録単位数」には反映されません）。

※GPAは計算結果の小数点第3位を四捨五入し、小数点第2までを表示します。

※**コースやゼミ選択の要件になっています。**

福祉社会デザイン学部・健康スポーツ科学部では、学修の質保証の観点からGPA2.0を上回ることを「卒業時の目安」として設定しています（卒業要件ではありません）。

～「卒業の目安」の意義～

学位授与方針で求めている能力や識見にふさわしい学力を備えて卒業するためには、学生は単に決められた単位数を数字上揃えるだけの履修をするのではなく、自らの学修目的にあわせた履修と、積極的な勉学が求められます。履修する科目の体系性や順序を良く考えて厳選して履修し、より充実した学修成果を獲得できるよう自学自習に励むことが大切です。学生は、これらのことをよく考慮し、「卒業の目安」の意味をよく理解して学修に励んでください。

◆ 成績調査 ◆

(1) 成績発表後、次の①～③に該当する場合において、定められた期間に成績調査申請を行い、成績評価を確認することができます。

①履修登録をしたが、成績評価の記載がない科目

②履修登録をしていなかったが、成績評価が記載されている科目

③履修登録し、シラバスにある成績評価基準を満たしているが、成績評価が間違っていると思われる十分な理由があり、科目担当教員に成績評価に間違いがないか、確認したい科目

(2) 成績調査の申請方法についてはToyoNet-ACE、ToyoNet-Gで確認してください。

※シラバスにある成績評価基準と表示されている成績評価が合わないと考えられる理由を具体的に入力してください。

※出席状況に関しての内容は、出席した月日を明示して説明してください。

※今後の学習方法、推薦図書・教材等の問い合わせは、成績調査では行わないでください。

成績調査は成績の再考を求めたり、個別の得点の開示を求めたりするものではありません。成績調査の趣旨に沿わない調査申請や自身の成績と無関係な申請内容と判断された場合は、申請は否決され担当教員には通知されません。十分に注意してください。

※成績と無関係な申請内容の例

・卒業に関すること ・就職に関すること ・他の履修者との比較



1. 卒業要件

4年以上（8セメスタ以上）在学し、下記の条件を満たした学生のみ卒業することができます。下記の条件をすべて満たさないと、卒業することができません。**必修科目も履修登録必要です！**

(1) 基盤教育科目	18単位以上
○哲学・思想	2単位以上
○学問の基礎	
(人文科学)	
(社会科学)	
(自然科学)	
○国際人の形成	8単位以上
(世界の伝統と文化)	
(グローバル社会の実際)	
(語学)	(8単位以上)
○キャリア・市民形成	8単位以上
(キャリア)	(2単位以上)
(市民形成)	(2単位以上)
(情報)	(4単位以上)
○健康・スポーツ科学	
○総合・学際	
(2) 専門科目	73単位以上
○学科専門科目	73単位以上
(必修科目)	(20単位)
(コース別必修科目)	(10単位)
(選択科目)	(43単位以上)
総計 ((1) と (2) の合計)	124単位以上

3. 基盤教育

(1) 哲学・思想

2単位以上を修得しなければなりません。

(2) 国際人の形成（語学）

1年次に「英語ⅠA」「英語ⅠB」「英語ⅡA」「英語ⅡB」を、2年次に「英語ⅢA」「英語ⅢB」「英語ⅣA」「英語ⅣB」を修得しなければなりません。あらかじめクラス分けがされていますので、指定されたクラスの授業を履修してください。

(3) キャリア・市民形成

キキャリア科目2単位以上、市民形成科目2単位以上、情報科目4単位以上修得しなければなりません。

4. 専門科目・学科専門科目

(1) 必修科目

20単位すべてを修得しなければなりません。

(2) コース別必修科目・選択科目

- ① 3・4年次に所属するコースの、コース別必修科目は10単位を修得しなければなりません。他コースの科目は、コース別必修科目を除き、「学科専門科目」の「選択科目」として履修することができます。
- ② 選択科目は43単位以上を修得しなければなりません。
- ③ 4年次の必修科目・コース別必修科目は、以下の条件を満たしていないと、履修することができません。従って条件を満たせなかった段階で、卒業も延期になりますので注意してください。

〈4年次の選択必修・コース別必修科目の履修条件〉

福祉社会デザイン学部規程 別表第5

対象科目	時期	条件
・空間デザイン演習ⅡA ・生活環境デザイン演習ⅡA ・プロダクトデザイン演習ⅡA ・空間デザイン演習ⅡB ・生活環境デザイン演習ⅡB ・プロダクトデザイン演習ⅡB	3年6セメスタ 終了時まで	以下1)と2)の両方の条件を満たすこと。 1)「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」「人間環境デザイン学概論」「ユニバーサルデザイン概論」「CAD演習Ⅰ」「人間環境デザイン基礎演習Ⅰ」「人間環境デザイン基礎演習Ⅱ」「人間環境デザイン基礎演習Ⅲ」「人間環境デザイン総合演習」の9科目の単位をすべて修得していること。 2)卒業要件の科目を100単位以上修得していること。
・卒業研究	4年7セメスタ 終了時まで	「空間デザイン演習ⅡA」「生活環境デザイン演習ⅡA」「プロダクトデザイン演習ⅡA」「空間デザイン演習ⅡB」「生活環境デザイン演習ⅡB」「プロダクトデザイン演習ⅡB」のいずれかを修得していること。

5. 3・4年次コース分けと各コースの特徴について

人間環境デザイン学科では、より高度な知識・技術の修得を目指した専門教育・職業人養成を行うために、3・4年次は「空間デザインコース」「生活環境デザインコース」「プロダクトデザインコース」の3つのコースに分かれて教育を行います。コース分けは本人希望を原則としますが、各コースの定数を超える場合は成績を加味してコース分けを行います。各コースの定数及びコース分けのガイダンスについては2年次の秋学期を予定しています。対象成績は秋学期終了時のGPAです。

各コースの内容は下記のとおりです。

空間デザインコース（※1）、生活環境デザインコース（※2）、プロダクトデザインコース（※3）のそれぞれの分野で、より高度なデザイン表現を学ぶと共に、それらの背後にある理念や知識につい

3年次のコース分けプロセスについて

人間環境デザイン学科では、3年次より空間デザインコース、生活環境デザインコース、プロダクトデザインコースに分かれて専門分野をより深く学びます。2年次の1月に希望調査を行いコース分けをしますが、それぞれのコースには定員がありますので、2年間の成績により決定します。2年次秋学期の成績まで含むため、コース分け発表は2年次3月初めに行います。

【コース定員】

4セメスター終了時の学生数を対象に、3コースで均等分割
167名であれば、各コース56/56/55人が定員

【コース分け方法】

コース分けでは、全学生を、2年秋学期を含む4セメスターで取得した（成績がC以上）単位数によって以下の3つのグループに分けます。

グループ1：76単位以上

グループ2：52単位以上75単位以下

グループ3：51単位以下

まずグループ1の学生について、成績のGPA（下記参照）の高い人から順番に第一希望、第二希望の順にコースを決定します。次にグループ2、最後にグループ3の学生についても決定していきますが、もし途中で第一希望のコースが定員に達した場合は第二希望のコースに決定します。第一・第二希望のコースがいずれも定員に達している場合は、空席のあるコースに決定します。

GPA（Grade Point Average）とは、単位あたりの成績の平均のことです。GPAは、各単位の成績（S,A,B,C,D,E）に対して、それぞれGradePointを与え(履修要覧を参照)、下記の式により算出します。

$$\text{GPA} = \frac{\text{(科目の単位数} \times \text{その科目で得たGrade Point) の総和}}{\text{履修登録した単位数の合計}}$$

<注意>

- 1：GPAの計算では、「履修登録」した全ての単位の成績が対象になります。したがって、履修登録したものの、途中で放棄したり、成績がD、Eなどで単位が取れなかった場合でも、分母に含まれますので注意してください。ただし、履修登録した後、所定の訂正期間内に履修を取り消した場合は、この計算式の対象にはなりません。
- 2：対象となるのは卒業要件に関わる科目単位のみです。教職科目、自由科目などは計算式の対象にはなりません。
- 3：再履修科目がある場合は、当該科目を履修する以前に履修登録した単位数および取得ポイントを計算式から除きます。ただし、一度単位を取得した科目（S,A,B,Cの成績がついた科目）は再履修できません。

これらを参考にして、計画的に学習を進めるようにしてください。

※3年次にゼミ配属がありますが、2年次終了時点のGPAを元に配属するコースがあります。

東洋大学新入学生用まとめ

各情報は「東洋大学HP」「Toyo-Net G」「Toyo-Net Ace」を参照
特に、「Toyo-Net ACE」「Toyo-Netメール」は、多少煩雑でも常に確認する事

■スケジュール

履修登録期間 2023.04.03 09:00 - 2023.04.07 23:59 Toyo-Net G上
履修相談会 2023.04.05 10:00 - 16:00 20305教室
授業開始 2023.04.10

東洋大学生活協同組合 e-Text赤羽台店等より、人間環境デザイン学科教材・語学・必修科目のテキスト等
<https://e-text.jp/akabanedai/>にてチェック

抽選科目発表

月・火開講授業 2023.04.14 17:00
水～金開講授業 2023.04.17 17:00
追加履修登録 2023.04.17 18:30 - 2023.04.21 15:00
履修登録確認票印刷 2023.04.21 15:00 -

■まず今現在やること

履修登録（4月7日 23:59迄）
人間環境デザイン学科教材、教科書の購入

■履修登録に使用する資料

履修要覧：どの科目で何単位取得できるか、必修科目はなにかなどを調べる資料
「東洋大学 ライフデザイン学部 履修要覧」で検索、人間環境デザイン学科のページを参照
履修登録のしおり（授業時間割表）：履修登録の方法、講義がいつ開講されるかが書かれた資料
シラバス：講義がどのような内容を行うか、教科書は何を購入すべきかを調べるための資料
「東洋大学 シラバス」で検索

■履修登録の方法

郵送された「情報システム利用通知書」に書かれた「統合ID」と「パスワード」を利用
履修登録に使用する資料をもとに時間割を作成
受ける授業を24単位以内(およそ12科目)で選択
「Toyo-Net-G」を検索して、統合IDとパスワードを入力してログイン
履修登録のタグを選択し、受けたい授業にチェックをして、履修登録（履修登録期間中は変更可能）
履修登録確認票を印刷
※事前登録科目は英語（予め決まっている）
学科専門必修科目（ユニバーサルデザイン概論、人間環境デザイン学概論、人間環境デザイン基礎演習
| 情報リテラシー |）は必ず自分で選択する
※最終日はアクセスが集中し、接続できない可能性があるため、余裕をもって履修登録を行う

■その他のお知らせと準備

PCとネットについて、時間割モデルプランを確認
東洋大学公式アプリ、Webexアプリ、responアプリをダウンロード

PC、インターネット環境、ソフトウェアについて

当学科は、製図・製作を重視する分野なので、特に専門科目については対面指導を前提に授業運営を行っています。PC教室には1学年分の授業用PCと自習用PCも準備しています。新型コロナウイルス感染症の感染状況が深刻化した場合も、まずは講義科目を遠隔化し、演習科目の遠隔化は避ける方向で授業を実施しています。

しかしながら、状況によっては、一時的にせよ、演習を含む全ての授業を遠隔化しなければならない可能性もありますので、授業にはPCとインターネット環境の準備が必須となります。授業開始までに準備して下さい。

1：準備するPCについて

自宅でも専門科目の学習をする場合、人間環境デザイン学科では、PCを文書作成や表計算だけでなく、グラフィック、製図、モデリングにも使用しますので、ある程度の性能を持つものが求められます。

2：インターネット環境について

講義科目が遠隔化された場合、特にインターネット契約の時間制限が受講の妨げとならない様、契約状況を確認し対策を準備して下さい。また、非対面授業の受講やソフトウェアの認証、インストールやアップデートのために、高速なインターネット環境の準備が必要です。

人間環境デザイン学科での専門的な学習に対応できるPCの具体的な仕様（スペック）やインターネット環境の整備、各学年で使用するソフトウェアに関しては、東洋大学WEBサイトの「入学者向けサイト」の資料の中に、以下の1～5の項目で詳細が説明されていますので参考にしてください。

1. PCについて
2. Windows PC 選定時のガイド
3. Mac PC 選定時のガイド
4. インターネット環境について
5. ソフトウェアについて

*「東洋大学入学者向けサイト」>「就学手続案内」>「◆【赤羽台キャンパス】2023年度就学手続案内（情報連携学部・ライフデザイン学部）」（PDF）

*より詳細な情報は、Toyonet Aceの1年生掲示板に掲載します。

東洋大学福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科2023年度入学者用春学期時間割モデル

	月	火	水	木	金	土	
1限	建築歴史意匠A	人間環境デザイン学概論	英語ⅠA (人1・人2) いずれかを1つずつ		英語ⅡA (人3・人4) いずれかを1つずつ	情報リテラシーⅠ (人環1/2/3/4) 非対面オンデマンド	春学期で最高24単位を取得可能
	2単位	2単位	1単位		1単位	2単位	
2限		ユニバーサルデザイン概論	英語ⅠA (人3・人4) いずれかを1つずつ		英語ⅡA (人1・人2) いずれかを1つずつ		学科専門必修科目
		2単位	1単位		1単位		
3限	人間環境デザイン基礎演習Ⅰ		英語ⅡA (人5・人6) いずれかを1つずつ	プロダクトデザイン基礎	英語ⅠA (人5・人6) いずれかを1つずつ		基礎教育英語必修科目 自動的に割り当てられた時間の英語ⅠA・英語ⅡAをそれぞれ履修する
			1単位	2単位	1単位		
4限	人間環境デザイン基礎演習Ⅰ				生活支援デザイン概論		学科専門選択科目
					2単位		
5限	3単位						あと約7単位分を基盤教育科目等から自由に選択する

大学院 ライフデザイン学研究科 人間環境デザイン学専攻 博士前期課程（修士課程）

人間環境デザイン学科の卒業生は毎年数名が大学院に進学しています。

大学院ではより専門的な分野について少人数で学ぶことができ、一人一人の興味のあるテーマに取り組み、修士論文または特定課題研究（作品の制作）として2年をかけて研究成果をまとめます。

1：学内推薦入試の制度

*学部の成績（受験時点の学期まで）のGPA3.2以上

※8月受験であれば4年次の成績がまだ出ないので、3年次までの成績

11月・2月の受験であれば4年次春学期までの成績

*所属研究室の教員と事前確認した上で8月・11月・2月の入試で面接のみ実施

*内部進学の場合入学金免除 年間学費は1年生：61万円 2年生：61万円

2：大学院講義科目の先行履修制度

人間環境デザイン学科の4年生はライフデザイン学研究科、社会福祉学研究科、健康スポーツ科学研究科の先行履修が可能です。大学院に進学する前に単位を取っておくことでより2年間の研究を深めることが可能になります。

*GPA3.2以上を満たす学生が対象

*講義科目（特論）のみ、15単位まで履修可能

*あらかじめ履修したい教科の担当教員に相談して許可を得る

*4年ゼミ教員の承認を取る

*進学意思の確認と履修希望科目情報等をgoogleフォームで

4月14日までに回答（4年生）

詳しいお問い合わせ先

赤羽台事務課大学院担当 腰山さん 長岡さん 岡本さん

人間環境デザイン学科 池田千登勢（専攻長） chitose@toyo.jp

東洋大学 大学院 赤羽台キャンパス 2023

Toyo University
Graduate School
Akabanedai
Campus 2023

2023年度より **移転**※1

社会福祉学研究所

・社会福祉学専攻

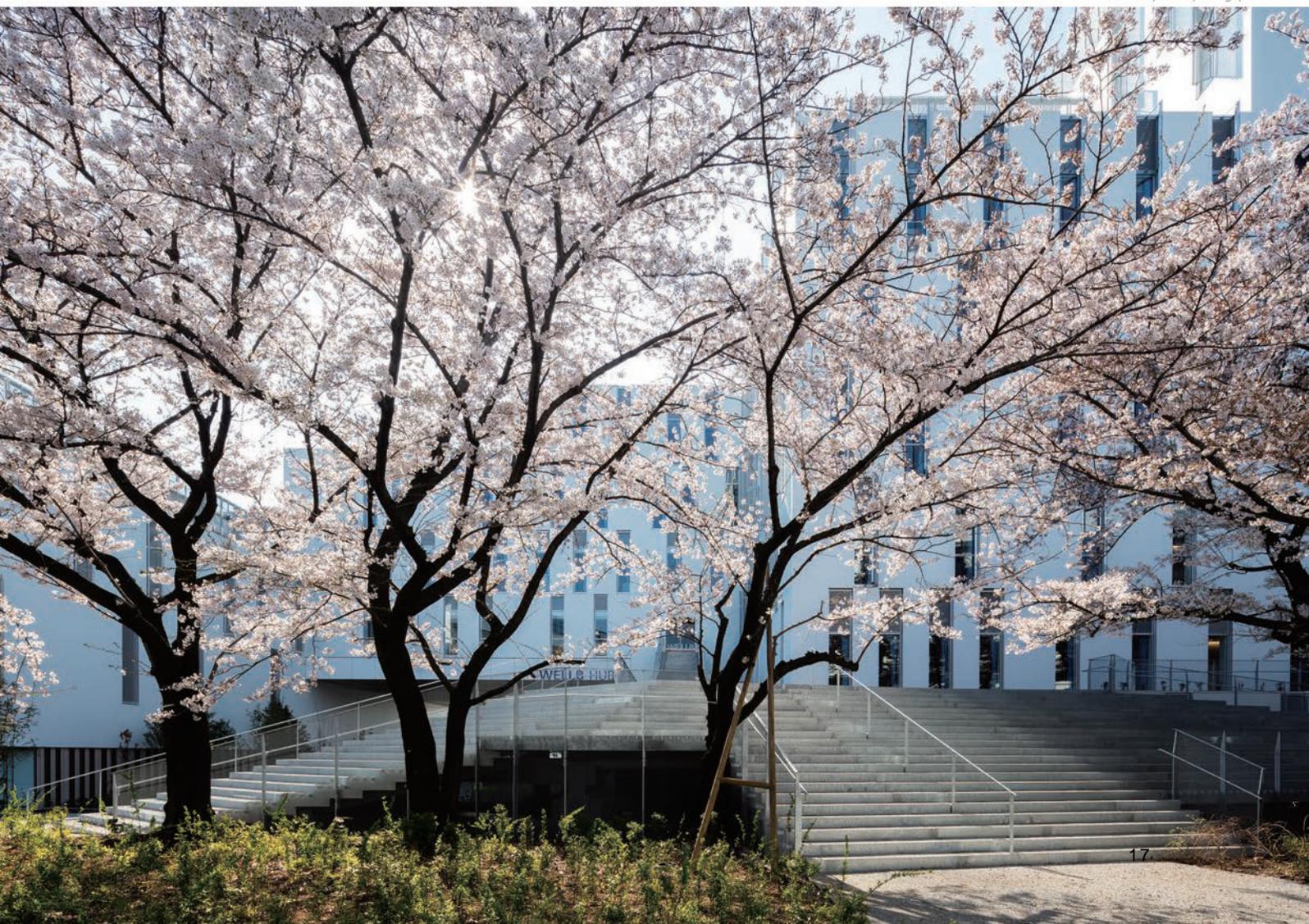
ライフデザイン学研究所

・生活支援学専攻
・ヒューマンライフ学専攻
・人間環境デザイン専攻

2023年度より **新設**※2

健康スポーツ科学研究科

・健康スポーツ科学専攻
・栄養科学専攻



赤羽台キャンパスは、次のステージに。

2023年度から、健康スポーツ科学研究科を新たに開設。

また、同じく2023年度より社会福祉学研究科が白山キャンパスから赤羽台キャンパスへ移転することで、既存のライフデザイン学研究科と共に「福祉」「健康」「スポーツ科学」の分野の課題解決に挑む最先端の研究を深めるにふさわしい環境へ進化します。

2023年度より **新設**※1

健康スポーツ科学研究科

健康やスポーツへの人々の関心が飛躍的に高まっている近年の日本及び世界において、運動や栄養を媒体とした健康増進やスポーツ振興に、エビデンスをもって科学的に取り組める専門性の高い人材が広く求められることから、当研究科では健康スポーツ学、スポーツ科学、栄養科学、ヘルスケアに関する深い見識を持った高度専門職業人ならびに教育研究者を養成します。

※1 設画編出中

New



Column

2023年竣工の新校舎

2023年4月に新校舎・図書館・体育館が完成予定です。新国立競技場などを手掛ける隈研吾建築都市設計事務所が建築設計を担当しています。既存校舎のWELLB HUB-2とはガラス張りのブリッジでつながります。また、体育館は躍動感を演出し、サステナビリティに配慮した「木屋根架構」を採用しています。



©浅吉啓介

Relocation



2023年度より **移転**※2

社会福祉学研究科

東洋大学の社会福祉教育100年の歴史の礎の上に日本の社会福祉学の研究・教育の中心を目指します。特に社会福祉の問題を分析する能力や解決に必要な社会資源を創造・開発する能力の習得を重視し、学内研究拠点等での実績や、国内外でのフィールド活動を踏まえた教育・指導を通じて、社会福祉の理論と実践に関して専門的な知見と実践力を有する人材を養成します。

※2 白山キャンパスから

ライフデザイン学研究科

現代社会における複雑化・多様化した生活上の諸問題解決のため、生活者に密着した福祉、保育、環境とモノのデザインの複数領域からアプローチします。各領域における実践現場に密着した高度な教育を展開し、人々のQOL(生活の質)向上に貢献し得る高度専門職業人ならびに研究者、教育者を養成します。

東洋大学



©Kawashiri Kobayashi Kenji Photograph Office

■ 社会福祉学専攻 博士前期課程／博士後期課程（昼夜開講）

本研究科は、前期課程においては、現場で要求されているスーパーバイザーとしての役割を果たせる専門性を備えた人材や社会福祉の知識と技術を生かしながら国内外で活躍できる人材を育成します。さらに、後期課程においては、そうした専門性の高いマンパワーを養成する大学、専門学校における教員の育成を目指し、社会的要請に応じていきます。

博士前期課程

人々が抱えるさまざまな生活問題の中で、社会的支援が必要となる福祉問題に対し、問題解決に向けた政策や実践に関する専門的な知見と実践力を有する人材を養成することを目的としています。特に留学生については、帰国後、社会福祉分野で活躍する指導者となることを念頭においた人材養成を行います。また、社会福祉の問題に対する分析力やそれらに対応するために必要な社会資源を創造・開発する能力を習得させることを目的に、本専攻の教員が関わっている学内研究拠点等での実績や、国内外でのフィールド活動を踏まえた教育・指導を行います。



博士後期課程

人々が抱えるさまざまな生活問題の中で、社会的支援が必要な福祉課題に対して、その問題構造を分析し対応する方途を探求していくための高度な研究・リサーチ能力を有する人材を養成することを目的とします。特に留学生については、母国における社会福祉の専門家養成を指導する立場となりうる人材を養成します。また、社会福祉に関する研究・リサーチのための研究方法論（歴史研究、政策研究、アドミニストレーション研究、参加型アクションリサーチ、プログラム開発と評価等）を十分に踏まえた研究が行える能力とともに、社会福祉の普遍的な価値を追究する高度な研究成果を国内外に発信できる能力を習得させることを目的とします。



教員紹介 社会福祉学専攻

教員名	テーマ	研究指導 (博士前期)	研究指導 (博士後期)
伊奈川 秀和	社会福祉政策、社会福祉法、社会福祉運営論	●	●
秋元 美世	社会福祉における法と政策	●	●
荻野 剛史	難民、外国籍住民に対するソーシャルワーク	●	—
小野 道子	子どもの権利、災害時の子ども支援	●	—
金子 光一	社会福祉史研究、社会福祉原論	●	●
加山 弾	地域福祉、コミュニティワーク、ソーシャル・インクルージョン	●	●
志村 健一	ソーシャルワーク、社会調査（特にグラウンデッド・セオリー）、ネットワーク	●	●
高山 直樹	自立支援、地域生活支援、エンパワメント、スティグマ、障害者	●	●
藤林 慶子	社会福祉、Social Work	●	—
佐藤 亜樹	ソーシャルワーク援助技術・方法論、人間の幸福とペット、ペット・アタッチメント尺度の妥当化	●	—

詳しくはこちら



ライフデザイン学研究科

■生活支援学専攻 修士課程(昼夜開講)

本専攻は、「高齢者・障害者への福祉」と「子どもへの福祉・保育」の2つの専門領域に対応し、高齢者・障害者支援学コースと子ども支援学コースの2コースで構成しています。教育においては、福祉・保育現場での高度な実践能力を養うため、学外へのフィールドワークや参与型研究を積極的に取り入れます。また、コース横断的な履修が可能なカリキュラムや、各領域の院生および教員との情報交換・指導の機会を専攻内で積極的に設けることによって、広い視野から現場の問題解決に挑む、福祉・保育領域の高度専門職業人を養成します。

■ヒューマンライフ学専攻 博士後期課程(昼夜開講)

本専攻は生活支援学専攻を基礎とします。福祉・保育という、子どもから高齢者、障害者など多様な生活者の生活、すなわち「ヒューマンライフ」分野における実践的課題を、国際的かつ学際的な見地から研究し、課題解決のための新たな概念モデルと方法論を構築・提示することができる研究者、ならびにその成果を各分野の専門従事者に還元する教育者を養成します。カリキュラムにおいては、各領域の高度な専門知識・研究手法を教授する科目を配置し、学生が関連諸科学における実験・調査・研究方法に習熟し、研究者として自立して国内外で活躍できる能力を養います。キャリアアップを目指して入学される、福祉・保育の各関連領域の専門職や、専門職養成機関において教員として働く方々を歓迎します。現場における実践上の問題を解決したいという学生の関心に応えるため、研究指導においては、臨床的知見を学位論文にまとめるための研究手法の教授のほか、現場での高度な実践力・指導力を養う教育を行い、問題解決指向型の臨床研究能力の醸成を図ります。

教員紹介 高齢者・障害者支援学コース／分野

教員名	テーマ	研究指導 修士課程※1	研究指導 博士後期課程※2
稲沢 公一	理論福祉学、精神保健福祉論	●	●
是枝 喜代治	障害者福祉、特別支援教育、学校ソーシャルワーク	●	●
山本 美香	居住福祉論、地域福祉論(小地域福祉活動)	●	—
吉浦 輪	医療福祉、社会福祉援助論、多職種連携協働論(IPC/IPE)、多重問題家族アプローチ	●	●
吉田 光爾	精神保健福祉論、訪問(アウトリーチ)支援、プログラム評価	●	●
渡辺 裕美	介護福祉、要介護高齢者への介護支援方法論、24時間ホームケア	●	●
的場 智子	患者団体、当事者組織、Self-Help	●	—
八木 裕子	介護福祉学、災害介護、訪問介護、介護福祉教育、ソーシャルケアワーク	●	—

※1 生活支援学専攻 ※2 ヒューマンライフ学専攻

教員紹介 子ども支援学コース／分野

教員名	テーマ	研究指導 修士課程※1	研究指導 博士後期課程※2
内田 千春	保育内容、多文化共生、コミュニティ、保育者・教員養成、就学前教育の国際比較	●	●
嶋崎 博嗣	幼少児の運動教育、幼少児の健康教育	●	—
鈴木 崇之	子ども家庭福祉	●	—
高橋 直美	宮沢賢治、昔話、日本近代文学	●	—
高山 静子	保育学、保育者の専門性、保育者の養成・研修、保育内容	●	—
中道 直子	発達心理学、乳幼児期の遊び、社会的認知、社会的学習	●	—
南野 奈津子	児童家庭ソーシャルワーク、多文化ソーシャルワーク	●	●
内田 塔子	子どもの権利、子どもにやさしいまち、子どもの意見表明・参加	●	—
高橋 健介	幼児教育、子どもの遊び、保育の質	●	—

※1 生活支援学専攻 ※2 ヒューマンライフ学専攻

詳しくはこちら



■ 人間環境デザイン専攻 博士前期課程／博士後期課程(昼夜開講)

本専攻は「建築・環境デザイン」、「道具・機器デザイン」、「製品・情報デザイン」の3コースで構成されています。それぞれの専門領域について深く学ぶとともに、近接する他分野への横断的な視点を持ち、総合的に問題をとらえ、利用者中心の環境やものづくりをデザインする「人間環境デザイン学」の専門家の養成を目指しています。インターンシップ科目など、国際的、学際的な教育研究を展開し、キャリアプランに応じたカリキュラムを展開します。

博士前期課程では、専門性の深化や包括的視点の修得を目指し、高度な知識・技術と実践的課題の解決手法を学ぶ講義、演習科目を配置するほか、企業や行政等との協働も行います。一級建築士受験に際しては、就学年数を実務経年数に換算するためのインターンシップ科目も整備し、キャリアプランに応じたカリキュラムを構成します。

博士後期課程では、自立した研究活動や高度な専門的業務の従事に必要な、学識・研究活動能力や学位を取得できる研究指導体制を構築します。課程修了後に、デザイン事務所、企業のデザイン部門、公設研究所、医療機関、行政などの各機関で高度な専門性を発揮できる人材、あるいは大学や研究機関の研究者、企業などにおける企画やコンサルタント、コーディネートに携わる人材の養成を目指しています。

教員紹介 人間環境デザイン専攻

教員名	テーマ	研究指導 (博士前期)	研究指導 (博士後期)
池田 千登勢	ユニバーサルデザイン、プロダクトデザイン	●	●
内田 祥士	建築設計論、建築技術論、近代日本建築史、量を持った技術を考える	●	●
大沼 敦	プロダクトデザイン、地域創生、伝統工芸	●	—
勝平 純司	モーションキャプチャーを使用した動作分析、福祉用具の開発や効果判定	●	●
菅原 麻衣子	建築計画、学校施設計画、まちづくり、バリアフリー・ユニバーサルデザイン	●	●
高橋 良至	福祉工学、ロボット工学、メカトロニクス	●	●
仲 綾子	子ども環境、建築計画、建築設計	●	—
水村 容子	住宅計画、住居学、住環境計画	●	●
嶺 也守寛	福祉デザイン工学、歩行分析・動作分析、スヌーズレン・Multisensory	●	●
柏樹 良	プロダクトデザイン、ファニチャーデザイン、レスポンスエンパイロメント	●	—
齋藤 博	まちづくり、地域デザイン、協働の都市計画、創造的都市論	●	—
富安 亮輔	建築計画、建築設計、高齢者の居住環境、災害時の住まい	●	—
名取 発	建築構法計画、バリアフリー部品、中国の構法、解体	●	—
松本 和也	プロダクトデザイン、情報デザイン、UI/UX、テクノロジー×デザイン	—	—



■健康スポーツ科学専攻 博士前期課程／博士後期課程(昼夜開講)

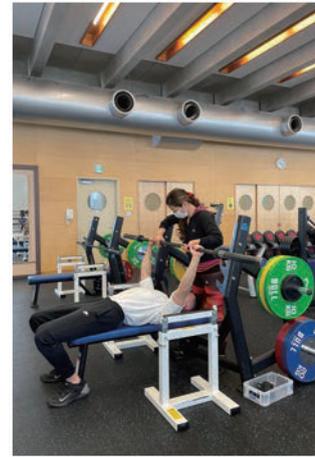
健康スポーツ科学専攻では、健康寿命の延伸や競技力の向上、スポーツ傷害の予防のほか、保健体育および養護教育などの実践現場における高度な教育を可能とする人材、さらには国際的に活躍できる高度な専門能力や知識を有する人材を養成します。

■栄養科学専攻 博士前期課程／博士後期課程(昼間開講)

栄養科学専攻は、従来の栄養学に加えて、機能的成分探索や生体応答の解析を行うニュートリションサイエンス、栄養疫学やヒト介入研究を行うニュートリションヘルスおよび未病対策方法の実践研究を行うニュートリションビジネスからなり、高度の専門性と社会で活躍する実践力を有する人材を養成します。

博士前期課程

健康やスポーツへの人々の関心が飛躍的に高まっている近年の日本及び世界においては、運動や栄養を媒体とした健康増進やスポーツ振興、アスリート支援に、エビデンスをもって科学的に取り組める専門性の高い人材が広く求められています。当研究科では健康スポーツ学、スポーツ科学、栄養科学に関する深い見識を持った高度専門職業人ならびに教育研究者を養成します。乳幼児から高齢者・障がい者等に至る幅広いフィールドにおける健康の増進や、スポーツを「する人」から「観る人」「支える人」を対象としたさまざまな局面におけるスポーツの振興に、個人から集団まで、自治体・学校から民間企業、地域社会から国際社会まで、様々なフィールドで貢献することを目的としています。



博士後期課程

運動及び栄養による健康増進・スポーツ振興及びアスリート支援の各分野において、国内に留まらず国際的にも活躍することが期待できる独立した研究者、教育者、スポーツや栄養関連の企業、官公庁、団体等において指導能力を発揮できる職業人を養成します。健康、スポーツ、栄養といった各専門分野の研究を自ら推進し、実践的かつグローバルな視点に立った課題設定能力と問題解決能力を習得させることを目的とします。



取得可能な資格 (健康スポーツ科学専攻 博士前期課程のみ)

所定の単位を修得することによって、取得可能な専修免許状の種類は以下の通りです。ただし、取得しようとする免許状(中学校教諭及び高等学校教諭の専修免許状については、その免許教科)の1種免許状を取得もしくは資格を有していることが必要です。

資格名	資格の種類	資格取得の条件
高等学校教諭専修免許状(保健)	国家資格 資格取得	当該教科に関する授業科目を24単位以上修得
高等学校教諭専修免許状(保健体育)	国家資格 資格取得	当該教科に関する授業科目を24単位以上修得
中学校教諭専修免許状(保健)	国家資格 資格取得	当該教科に関する授業科目を24単位以上修得
中学校教諭専修免許状(保健体育)	国家資格 資格取得	当該教科に関する授業科目を24単位以上修得
養護教諭専修免許状	国家資格 資格取得	当該教科に関する授業科目を24単位以上修得

詳しくはこちら



教員紹介 健康スポーツ科学専攻

教員名	テーマ	研究指導 (博士前期課程)	研究指導 (博士後期課程)
岩本 紗由美	アスレティックトレーニング学(コンディショニング・コンディショニング学)	●	●
内山 有子	学校保健論	●	—
大迫 正文	骨および軟骨に関する解剖・組織学的研究	●	●
木内 明	東洋に伝わる身体観・健康観	●	—
神野 宏司	公衆衛生学、健康増進科学	●	●
今 有礼	運動生理学・生化学	●	●
齊藤 恭平	ヘルスプロモーション(地域の健康づくり活動支援)	●	●
古川 寛	健康増進のためのトレーニング科学	●	—
金子 元彦	障害者スポーツ指導、アダプティッド・スポーツ	●	—
鈴木 智子	エアロビクス論	—	—
平野 智之	体育科教育学	●	—
細谷 洋子	レクリエーションスポーツ論	●	—
土江 寛裕	スポーツ科学、バイオメカニクス、コーチング学	●	—
谷釜 尋徳	スポーツ史	●	—
新任予定	スポーツ哲学・スポーツ倫理学	●	—
新任予定	スポーツ心理学	●	—
新任予定	スポーツ経営学	●	—
新任予定	スポーツ科学	—	—

教員紹介 栄養科学専攻

教員名	テーマ	研究指導 (博士前期課程)	研究指導 (博士後期課程)
加藤 和則	健康維持、疾患予防に寄与する食品機能成分と医薬資源の研究	●	●
矢野 友啓	食理学的アプローチによる新規がん予防・治療戦略の構築	●	●
宮越 雄一	発がん物質のスクリーニングと酸化損傷に関する研究	●	—
大上 安奈	運動および栄養摂取に伴う血管応答・適応に関する研究	●	●
太田 昌子	ライフステージや運動時におけるビタミンの生理機能に関する研究	●	●
新任予定	腸内細菌、プレバイオティクスとプロバイオティクスの研究	●	●
吉崎 貴大	食事および睡眠の不規則さと心身との健康に関する研究	●	●
新任予定	ライフサイエンス、栄養学・健康科学、創薬科学・分子病態学	—	—

*こちらは2022年5月時点の情報です。最新情報はWebサイトにてご確認ください。

健康スポーツ科学専攻

教員紹介



開講予定科目



栄養科学専攻

教員紹介



開講予定科目



入学試験概要／入学時納付金 (2023年4月入学)

入試日程

2022年8月試験

出願期間*	試験日	合格発表日
2022年 7月8日(金)～ 7月15日(金)	2022年 8月27日(土)	2022年 9月8日(木)

2022年11月試験

出願期間*	試験日	合格発表日
2022年 11月4日(金)～ 11月11日(金)	2022年 11月27日(日)	2022年 12月7日(水)

2023年2月試験

出願期間*	試験日	合格発表日
2023年 1月5日(木)～ 1月12日(木)	2023年 2月18日(土)	2023年 3月2日(木)

※専攻・入試種別によって、入試実施のない試験月があります。詳細は入学試験要項で確認してください。

入学試験要項

以下のQRコードからご確認ください。

社会福祉学専攻



ライフデザイン学専攻



健康スポーツ科学専攻



納付金 (2023年度)

*下記の金額は納入予定額のため、変更となる場合があります

(単位:円)

研究科/専攻		学費				計
		入学金 (入学申込金)	授業料	一般施設 設備資金	実験実習料	
ライフデザイン学専攻 生活支援学専攻(修士課程) 社会福祉学専攻 社会福祉学専攻(博士前期課程)	本学出身者*	-	450,000	90,000	-	540,000
	他大学出身者	270,000	450,000	90,000	-	810,000
ライフデザイン学専攻 ヒューマンライフ学専攻(博士後期課程) 社会福祉学専攻 社会福祉学専攻(博士後期課程)	本学出身者*	-	450,000	70,000	-	520,000
	他大学出身者	270,000	450,000	70,000	-	790,000
ライフデザイン学専攻 人間環境デザイン専攻(博士前期課程) 健康スポーツ科学専攻 健康スポーツ科学専攻(博士前期課程)	本学出身者*	-	450,000	90,000	70,000	610,000
	他大学出身者	270,000	450,000	90,000	70,000	880,000
ライフデザイン学専攻 人間環境デザイン専攻(博士後期課程) 健康スポーツ科学専攻 健康スポーツ科学専攻(博士後期課程)	本学出身者*	-	450,000	70,000	70,000	590,000
	他大学出身者	270,000	450,000	70,000	70,000	860,000
健康スポーツ科学専攻 栄養科学専攻(博士前期課程)	本学出身者*	-	550,000	130,000	120,000	800,000
	他大学出身者	270,000	550,000	130,000	120,000	1,070,000
健康スポーツ科学専攻 栄養科学専攻(博士後期課程)	本学出身者*	-	550,000	80,000	120,000	750,000
	他大学出身者	270,000	550,000	80,000	120,000	1,020,000

※本学の学部(通信教育課程・短期大学を除く)から大学院に進学する場合、および本学の大学院修士/博士前期課程から博士後期課程に進学する場合、入学金は免除となります。①入学金(入学申込金)の納入は初年度のみです。②納付金は、全額一括納入(全納)と、授業料・一般施設設備資金・実験実習料を年2回に分けて納入する分割納入(分納)を選択することができます。③納入した入学金(入学申込金)は、「東洋大学大学院の合格した研究科・専攻に入学し得る地位を取得するための対価」としての金員であるため、入学を辞退した場合であっても返還しません。また提出した書類は返還しません。④長期履修制度の納付金等の詳細は本学Webサイトにてご確認ください。

Access

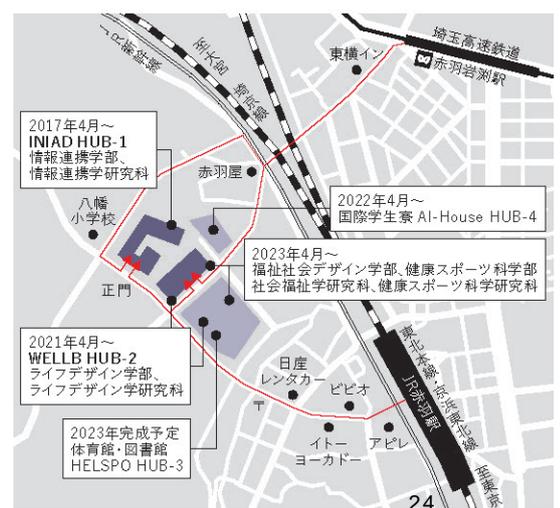
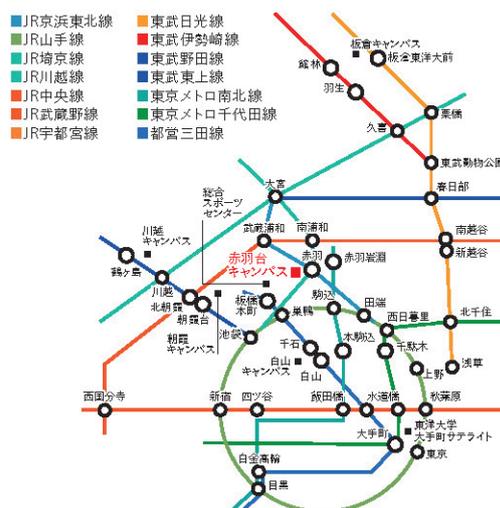
東洋大学 赤羽台キャンパス
(WELLB HUB-2)

- ▶ JR「赤羽」駅
西口から徒歩8分(正門まで)
- ▶ 国際興業バス
「赤羽台三丁目」バス停徒歩2分(正門まで)
- ▶ 東京メトロ南北線・
埼玉高速鉄道「赤羽岩淵(N19)」駅
2番出口から徒歩12分(正門まで)

Contact

入試に関する問い合わせ先

東洋大学 赤羽台事務課
Tel: 03-5924-2164
E-mail: mlags@toyo.jp



人間環境デザイン基礎演習 I の進め方

デザイン基礎 I 担当グループ

- ・本演習は、**1年生全員**が受けなければならない、**必修**の演習です。
- ・本演習は毎週課題が出され、課題の提出が切があります。
- ・いずれの課題も厳守ですので、各自スケジュール管理に努めてください。
- ・この演習の単位を落とした場合は、2年生の春学期に**再履修**する必要があります。
- ・毎年この単位を落とし続けると、卒業がいつまでも伸びることになりますので、1年生のうちをしっかり取り組んでください。
- ・本演習は**毎週対面**で行います。
- ・各自、感染防止に努めながら受講してください（講義室は適宜換気を行います）
- ・演習を欠席する場合は、必ず事前に専任教員または助手にメールで申し出てください。

＜ 空 間 ＞	専任教員	齋藤	saito023@toyo.jp
	助 手	木村	kimura964@toyo.jp
＜ 生活環境 ＞	専任教員	菅原	sugawara@toyo.jp
	助 手	生田	ikuta@toyo.jp
＜プロダクト＞	専任教員	池田	chitose@toyo.jp
	助 手	横山	yokoyama044@toyo.jp

- ・演習開始直前の連絡や相談には十分応じられません。極力早めに連絡をしてください。
- ・欠席した場合は、高層棟7階助手室または専任教員の研究室になるべく早く資料を取りに来て、課題に取り組んでください。
- ・自身や同居家族の発熱症状があるなど、感染症やその疑いがある場合には、本学ホームページに掲載されている「**新型コロナウイルス感染症に関する登校禁止の取り扱い**」を必ず確認し、適切な行動に努めてください。

以 上

人間環境デザイン基礎演習 I

「計画・設計」



「人体・動作」



「平面・立体表現」



スケジュール

月日

授業内容、担当教員

月日		授業内容、担当教員			
1	4 10	「全体説明、教員紹介、環境の計測」			
		Group A (学番001~055)	Group B (学番56~111)	Group C (学番112~167)	
2	17	「平面構成と設計の基礎」 教員：齋藤	「人体・動作・環境の理解」 教員：菅原	「スケッチ・模型作成基礎」 教員：池田	
3	24	「敷地環境の理解」 萩野	「敷地調査と模型作成」 村井	「テープカッターデザイン」 土屋	
4	5 8	「空間表現」 堀川	「エスキス図面による検討」 別府	「テープカッターデザイン」 「配色」「写真撮影」 間辺	
5	15	「空間デザインの提案」 木村	「アプローチのデザイン提案」 生田	「テープカッター発表講評」 「人物・室内のスケッチ」 鈴木	
6	22	「スケッチ・模型作成基礎」 池田	「平面構成と設計の基礎」 齋藤	「人体・動作・環境の理解」 菅原	
7	29	「テープカッターデザイン」 土屋	「敷地環境の理解」 萩野	「敷地調査と模型作成」 村井	
8	6 5	「テープカッターデザイン」 「配色」「写真撮影」 間辺	「空間表現」 堀川	「エスキス図面による検討」 別府	
9	12	「テープカッター発表講評」 「人物・室内のスケッチ」 鈴木	「空間デザインの提案」 木村	「アプローチのデザイン提案」 生田	
10	19	「人体・動作・環境の理解」 菅原	「スケッチ・模型作成基礎」 池田	「平面構成と設計の基礎」 齋藤	
11	26	「敷地調査と模型作成」 村井	「テープカッターデザイン」 土屋	「敷地環境の理解」 萩野	
12	7 3	「エスキス図面による検討」 別府	「テープカッターデザイン」 「配色」「写真撮影」 間辺	「空間表現」 堀川	
13	10	「アプローチのデザイン提案」 生田	「テープカッター発表講評」 「人物・室内のスケッチ」 鈴木	「空間デザインの提案」 木村	
14	17	総合課題 環境デザイン企画			
15	24	全体講評			

※本資料は、人間環境デザイン基礎演習 I のガイダンス資料です。4/10までによく読んでおいてください。

※本演習は、毎回対面による授業です。

※各教員、助手の研究室は、高層棟の7階にあります。

※Toyonet-Acelにて重要な連絡をすることがあるため定期的に必ず確認するようにしてください。

下記の用具は人間環境デザイン基礎演習を行う上で必要な文房具となります。
授業に向けて準備しておくこと。

筆記用具	鉛筆 2B、B、HB、F、H、2H (STAEDTER Lumograph ステッドラーモノグラフ推奨) シャープペンシル 0.5mm、1本 (ステッドラーなど製図用を推奨)、芯の硬さはHB 色鉛筆 (カリスマカラー24色推奨) 消しゴム (ステッドラーなど製図用を推奨) 字消し板
スケッチブックなど	クロッキーブック (マルマンSLサイズ推奨)
定規、コンパスなど	アクリル製三角定規 (24 cm) (面取されているものを推奨) ステンレス製定規 (30 cm) もしくは (60 cm) アクリル製定規 (30 cm) もしくは (60 cm) 三角スケール (15cm) コンパス コンベックス (巻尺) (5m)
その他	カッター カuttingマット (セイフティーベース) (300mmX450mm程度) ドラフティングテープ (幅12mm程度のもの) 両面テープ (幅12mm程度のもの) スティックのり スチのり 分度器 A3用紙を曲げずに入れられるケース (ドラフポートフォリオA3推奨) ポキ (カッターの刃を折り、安全に捨てられるもの) ホチキス



※大学生協やレモン画翠等で購入可

人間環境デザイン基礎演習の開講にあたって

「人間環境デザイン基礎演習1/2/3」は、ひと、もの、空間を総合的に捉える「人間環境デザイン学」の基礎を学ぶための一連の演習です。「人間環境デザイン基礎演習1」は、文字通り、その最初の科目です。実践的な三つの演習を通して人間環境デザインの基礎を学びます。一人でじっくりと思索し、友と議論し、更に、各教員のさまざまな経験を聞きつつ平面や立体、人体やその動作、計画や設計の基礎をしっかりと学んでください。そして、近い将来、空間デザイン、生活環境デザイン、そしてプロダクトデザインの各専門コースへ進むための道標を探し出してください。

なお、実験工房棟内の工作機械等の使用は、原則として2年時からですが、1年生の間に使用を希望する場合には、必ず、技術員の指導を受けてから、その指示に従って使用して下さい。

※注 当面は三密を避けながらの利用となります。

担当教員

人間環境デザイン基礎演習 I

計画・設計	齋藤 博	saito023@toyo.jp
	萩野 正和 (非常勤)	
	堀川 良成 (非常勤)	
	木村 才人 (助手)	kimura964@toyo.jp
人体・動作	菅原 麻衣子	sugawara@toyo.jp
	村井 エリ (非常勤)	
	別府 知哉 (非常勤)	
	生田 尚志 (助手)	ikuta@toyo.jp
平面・立体表現	池田 千登勢	chitose@toyo.jp
	土屋 健一 (非常勤)	
	間辺 慎一郎 (非常勤)	
	横山 翔一 (助手)	yokoyama044@toyo.jp

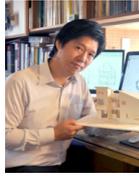
計画・設計

齋藤 博



空間デザインコース教員の齋藤です。都市計画やまちづくりを専門とし、1年生秋学期の「都市・まちのデザイン」も担当しています。大学に入って最初の演習ということで分からないこともあると思いますが、「自分で考えて、とにかくやってみる！」という姿勢で取り組んでください。

堀川 成良 (非常勤)



株式会社堀川設計舎にて住宅、店舗、施設等の設計に携わっております。クライアントの希望・環境・作り手の個性などの中にあるオリジナリティを活かすことを心掛け、モノづくりの楽しさを共有する活動もしています。

萩野 正和 (非常勤)



株式会社connelというまちに関するプロジェクトコーディネートの会社を経営しています。「つくる」ことから「使われる」ことへ価値が変化してきた今、画一的な運用では物足りなく、空間が人々により有効的に使われるように運用される仕組みが求められています。王道的な正解はなく多様な選択肢が認められる時代です。一緒に考えていきましょう。

木村 才人 (助手)



実習指導助手の木村才人(さいと)です。先生とはまた違った立場で皆さんの学習や学生生活をサポートいたします。自分で考えて、調べて、それでも解決しない問題に直面したら、僕に聞きに来てください。皆さんに直接お会いできることをとても楽しみにしています。

人体・動作

菅原 麻衣子



生活環境デザインコース教員の菅原です。春学期の講義では1年生の必修科目である「ユニバーサルデザイン概論」も担当します。無類の旅好きです。様々な人たちのためのデザイン、その"様々"ってなに?を一緒に読み解いていきましょう。

村井 エリ (非常勤)



一級建築士事務所all(オール)という設計事務所をしています。ひとりでも多くの方が豊かに暮らせる住まいをつくるのがモットーです。この授業は、人-モノ-空間の関係性を考えるはじめの一歩。一緒に学べるのを楽しみにしています。旅と民藝好きです♪

別府 知哉 (非常勤)



建設コンサルタントで「まちづくり」をやっています。専門は「バリアフリーのまちづくり」。最近では、国際空港のユニバーサルデザイン評価や、街中のパブリックスペース活用の社会実験などを行っています。まちづくりの視点から皆さんと一緒にデザインを考えていければうれしく思います。

生田 尚志 (助手)



実習指導助手の生田です。皆さんが楽しく学べるようサポートしていきたいと思います。モノの考え方は人それぞれです。自分の考えをどう表現すればよいか等、悩んで進まなくなった時は気軽に相談してください。一緒に考えていきましょう。

平面・立体表現

池田 千登勢



プロダクトデザインコース教員の池田です。好きなことはガラス工芸・フルート・ピアノ連弾・登山です。甘いものに目がなくて、重度の方向音痴です。秋学期の「製品と情報のUD」では実験やワークショップを通してユニバーサルデザインを学びます。

土屋 健一 (非常勤)



エム・ティ・プランニング株式会社、メディアフロント・ジャパン株式会社、2つの会社をやっている土屋です。プロダクトデザインやユーザーインターフェース、デジタルエンターテインメントシステム開発にたずさわっています。皆さんにもこの分野に興味を持ってもらえると嬉しいです。

間辺 慎一郎 (非常勤)



間辺と申します。クリナップ株式会社でキッチンやお風呂などのデザインをしています。最近、企業ブランディング、マーケティング、プロモーションを行う部署に異動しました。趣味は家のセルフリノベーション。生活を変えるデザインの楽しさを伝えたいと考えています。

横山 翔一 (助手)



実習指導助手の横山です。3Dプリンターで家具を作ることが好きです。みんなが夢中になってもぜひ教えてください。もし困ったことがあれば気軽に声をかけてください。一緒に考えて、手を動かしていきます。

1. 期限までに提出
期限までに提出された課題は、S,A,B,C,D,Eの成績で評価される

2. 1週間以内の遅れ提出
提出期限の翌月曜日の授業の授業開始直後までを「1週間以内」とする。
提出先は各回ともToyonet-Aceで提出先を指定する
1週間以内の遅れ提出の課題の成績はワンランク落ちる。
たとえば、SであればA、BであればCとなる。

3. 1週間以降の遅れ提出
1週間以上遅れて提出する場合
提出先は各回ともToyonet-Aceで提出先を指定する
B以上のレベルの課題でなければ受け取らない。
1週間以降の遅れ提出の課題の成績はC以下となる。およそ2ランク落ちる。

4. 遅れ提出の最終期限
最終提出期限…**7月31日（月）13時00分**
この時刻を過ぎたものは、一切受け取らない。

5. 基本的な注意事項
一つでも提出していない課題があると、単位が取得できず、翌年再履修となる。
必ず全ての課題を提出するよう、不明な点などはすぐに教員に相談すること。

再履修について
最終の総合成績が「D」→ 部分再履修
最終の総合成績が「E」→ 全再履修
最終の総合成績に「D・E・*」が付いていた学生は、直ぐに齋藤先生の所へ行くこと。

返却された課題は、少なくとも1年間は必ず保存しておくこと
また、就職活動に使うポートフォリオに掲載することができるように
必ず作品の写真を撮っておくこと。

第 1 回

スケジュール	4月10日（月） 13 : 00～ 「環境の測定」
集合場所	学籍番号001～055 20507教室 学籍番号056～111 20413教室 学籍番号112～167 20406教室
用意するもの	<input type="checkbox"/> 筆記用具(シャープペンシル・鉛筆・ボールペン・消しゴム 等) <input type="checkbox"/> 直定規(30cm) <input type="checkbox"/> 三角定規 <input type="checkbox"/> 三角スケール <input type="checkbox"/> コンバックス(巻き尺) <input type="checkbox"/> スケッチブック

第 2 回

※学籍番号で授業内容、集合場所が違います。

スケジュール 4月17日（月） 13 : 00～

■学籍番号 001～055

内容 「計画・設計」 

集合場所 20507教室

用意するもの 鉛筆 消しゴム 直定規 三角定規
 分度器 コンバックス カッターナイフ ステンレス製定規
 カッターマット カッター刃の廃棄用ケース「ポキ」または同等品

■学籍番号 056～111

内容 「人体・動作」 

集合場所 20413教室

用意するもの 鉛筆 消しゴム 直定規 三角定規 分度器
 三角スケール A 3方眼紙ノート コンバックス スケッチブック
 ドラフティングテープ

■学籍番号 112～167

内容 「平面・立体表現」 

集合場所 20406教室

用意するもの 鉛筆 消しゴム カッターナイフ カッターマット
 直定規 分度器 三角定規 ステンレス製定規
 カッター刃の廃棄用ケース「ポキ」または同等品
 お菓子の箱(コンビニの箱菓子など.中身不要) ペットボトル

《注意事項》

当演習は、授業の最初に課題説明を行います。遅刻をすると課題説明を聞くことができません。

13時までに着席しているように注意してください。

道具等の貸し出しは行っていません。用意するものを忘れた者は生協等にて購入すること